



中国経済産業局メールマガジン(METI CHUGOKU TIMES)【第266号/2005.11.07】

■チャレンジ応援団メール！

○応援団長 【局長 奥村 和夫】

10月25日、26日には、島根県の企業等を訪問しました。まず、25日に松江市にある小松電機産業(株)を訪問し、小松社長、柏井顧問、米村経営企画部長からお話をお伺いしました。同社は、小松社長が1973年に独立してわずか工具箱1つで農業用ポンプの修理から創業した企業で、その後ポンプ販売、配電盤の製作、上下水道計装システムと次々と事業を展開されました。

85年には、人や車を感知して瞬時に自動開閉する高速シートシャッターを開発しました。これは、スチールシャッターの約20倍のスピードで作動、出入り口の開閉時間を短縮し、屋内の空調効率、屋外からの異物混入防止等の面で優れた機能を発揮することから、今までに国内外の工場や業務用施設などで約10万台が採用されています。この製品は、もともと山陰の寒い冬をしのぐために開発されましたが、最近では高い防虫製、防塵性から食中毒や異物混入が問題となっている食品業界などで特に注目を集めているそうです。

また、92年には新しい上水道自動制御・監視システムを開発しました。これは、管理責任者の役場と中継ポンプ場や末端の処理施設をつないで水質等関係データを常に把握するとともに、必要な場合迅速、的確に対応できるシステムです。その後バージョンアップを重ね、現在では、iモード、インターネットで装置を遠隔操作で監視制御できるようになり、管理者はどこにいても、状況の把握、対処が可能になっています。このため、このシステムは現在、全国約1300の上下水道施設を始め、農業、ひ門、消融雪施設、雨水排水施設等で広く利用されています。

さらに同社は、近時このシステムの監視・制御機能を活用しながら有用微生物を用いて農業集落排水を処理する画期的な技術を開発しました。従来このような場合、活性汚泥法により汚泥と水を分離し、塩素滅菌で処理した後排水していましたが、この方法では汚泥の最終処分が必要になり、また悪臭・腐食性ガスの発生という問題もありました。同社が開発した新処理法では以上の問題がほぼ解決されるとともに、富栄養化の原因となる窒素、リンの水分中の含有量を抑えることができることから地元の中海・宍道湖といった水域の浄化に役立つそうです。また、処理後の水や溶液はアンモニアガスを分解し牛糞堆肥等の消臭機能も持つほか土壌改良等の効果もあり、畜産、農業等における循環活用が可能になるとのことです。

本事業は、今後地球規模で増える人口の中で不可避となる「水」の確保・浄化という21世紀の課題を克服していこうという小松社長の高い志のもとに進められています。技術のみならず中国の古典、内外の歴史など幅広い見識をお持ちの同社長は、今後もこのように自然とテクノロジーの融合を目指して、企業活動はもちろんのこと「環境」「健康」「平和」につながる事業を展開していきたいと力強く語っておられました。大いに期待したいと思います。